

# 第1回「持続可能な地域のあり方懇話会」

## 議事要旨

日時 令和7年8月27日（水） 14:00～16:00

場所 江戸川区役所 4階 第1～3委員会室

出席者 専門委員

白木 三秀 (早稲田大学名誉教授・国士舘大学大学院客員教授)

澤岡 詩野 (東海大学健康学部健康マネジメント学科准教授)

委員

関口 孟利 (松江地区連合町会会長)

中村 徹 (小松川平井地区連合町会会長)

田澤 茂 (一之江地区町会連合会会長)

千倉 嘉一 (葛西地区自治会連合会会長)

森田 省吾 (小岩自治会連合会会計)

伊藤 彰彦 (瑞江地区連合町会会長)

松下 幸博 (篠崎地区連合町会会長)

実川 享 (鹿骨地区自治会連合会会長)

高山 稔 (くすのきクラブ連合会副会長)

小峰 孝子 (江戸川区民生・児童委員協議会小岩第一地区 副会長)

戸倉 振一 (江戸川区障害者団体連絡会江戸川区腎友さつき会会長)

古宮 朋子 (一般社団法人江戸川区文化芸術協会常任理事)

村山 寿太郎 (一般社団法人江戸川区スポーツ協会常任理事)

河藤 小百合 (公益財団法人えどがわボランティアセンター監事)

守島 亜季 (一般社団法人江戸川区医師会副会長)

杉山 英麿 (江戸川区商店街連合会副会長)

大野 靖二 (東京商工会議所江戸川支部事務局長)

菅原 豊 (環境をよくする葛西地区協議会会長)

中里 国利 (江戸川消防団副団長)

彦田 好之 (葛西消防団副団長)

小泉 和久 (小岩消防団副団長)

池田 進 (認定NPO法人えどがわエコセンター理事)

小野塚 良朋 (江戸川区立小学校長会会長)

中嶋 浩詞 (江戸川区立中学校PTA連合協議会ブロック長)

林 伸子 (青少年育成地区委員会小岩中部地区委員会委員長)

窪田 龍一 (江戸川区議会議員生活振興環境委員会委員長)

小林 智夫 (江戸川区議会議員生活振興環境委員会副委員長)

グリズデイル バリージョシュア

(公募区民)

原田 まなつ (公募区民)

磯崎 愛 (公募区民)

## 議事要旨

### 1 開会

(当懇話会の背景及び目的について)

- 江戸川区には地域のみなさまが培っていただいた、「地域の力」、「人と人とのつながり」があるが、人口減少等により地域の担い手が減少することを懸念している
- 区民のみなさまが安心・安全に暮らせるように、地域のつながり、活動を維持していきたい
- 日々地域で活動されているみなさまの声を聴き、地域活動が今後も末永く継続できるよう一緒に考えていきたい
- みなさまからいただいた意見をもとに、今後持続可能な地域づくりの基本構想を取りまとめていきたいと考えている

### 2 会長及び副会長の選任

- 早稲田大学名誉教授・国士舘大学大学院客員教授の白木三秀氏が会長に選出された
- 東海大学健康学部健康マネジメント学科准教授の澤岡詩野氏が副会長に指名された

### 3 事務局説明

(要綱について)

- 懇話会は原則公開とし、傍聴を認め、あわせて議事録については、事務局で作成し、後日、区ホームページに掲載する

(各団体の現状と課題について)

- 「地域の防災意識を高めるために防災活動をしたい」、「地域の活動をもっと多くの方に知ってほしい」など、様々みなさまの活動で課題があると認識している
- 区の想定として、「担い手が足りない」「どこに相談したらいいかわからない」などが共通の課題でないかと考える
- 活動の負荷について、町会・自治会を例にすると、合計で年間少なくとも1,200回以上の活動、延べ約49,000人が何かしら活動をしていただいている
- 日々、地域のために活動して感じていることを本日お集まりいただいたみなさまから教えていただきたい

(地域課題の解決方法について)

- 課題に対する解決策について考えていきたいが、ここで結論をだすことはできない。区が考える解決策の一つを紹介する
- 「担い手が不足している」「どのような場所で活動していいかわからない」という課題に対し、自宅から歩いていける距離に仮ではあるが、「ミニ区役所」を設置してはどうかと思っている
- 「ミニ区役所」は「オンライン申請のサポート」「対面での相談・手続き」「多世代が集える場所」「地域のつながりをコーディネート」の4つの機能をもっている
- あくまでもイメージではあるが、「ミニ区役所」を地域のみなさまで連携する場所とし、地域に関わるみなさまがつながることができる場になればいいと思っている。個別に活動していたものが、この地域連携の場を通じて、連携して様々な活動に取り組める体制をイメージしている

### 4 意見交換

「各団体の現状と課題」及び「地域課題の解決方法」について、グループ内で意見交換を行った。

## (主な意見の内容)

### <各団体の現状と課題>

#### (人材・参加者不足、世代間ギャップ)

- ・ 人手不足、後継者不足、中間層（ミドル世代）の参加が少ない、高齢化
- ・ 新陳代謝ができていない、担い手の固定化
- ・ 働いている人は地域活動に参加する時間がない

#### (多様性、交流・コミュニケーションの課題)

- ・ 外国人の地域活動への誘い方がわからない、コミュニケーションが難しい
- ・ 近所付き合いの低下、団体間の連携ができない
- ・ 地域団体と子どもがつながる環境づくり

#### (活動の負担、新規性の課題)

- ・ 活動の負担が大きい、新しい取組が生まれにくい環境、参加するメリットを明示できない

#### (資金、場所の不足)

- ・ 活動を行う資金が不足、活動資金の減少
- ・ 活動場所がない、発表場所がない

#### (情報発信・認知の課題)

- ・ 情報発信が不足している、情報発信の方法がわからない

#### (災害対応・防災意識)

- ・ 災害時の助け合い

### <地域課題の解決方法について>

- ・ 地域連携の場があれば、各団体がつながれる場となる
- ・ 目に見えない活動の「見える化」が図れる
- ・ いろいろな年代、団体が集まれる場となる
- ・ 地域に根差した支援を後押しできる
- ・ 身近に相談できる場所があると安心する
- ・ 一方で、同じ人だけが集まる場にならないよう検討が必要
- ・ これまでの地域活動が崩れないような支援が必要
- ・ 場所ができて人も集まる仕組みが必要
- ・ 地域の団体を結びつける役割が必要
- ・ 防災、防犯の連携が必要
- ・ 地域交通の充実が必要
- ・ 若者主体のイベントが必要
- ・ 若者が自ら参加できるような支援が必要

### <講評>

#### (澤岡副会長)

●地域連携の場においては、新しい人が参加しやすい土壌をつくるのが大切。一つの団体だけで地域活動を行うことが難しい時代になっており、ミニ区役所を起点に狭いエリアで各団体が連携することで、課題の解決策を具体化できるのではないかと。また、隣のエリアや区外など、多様な団体と連携し、新たな力を生み出せるようなものにできれば、持続可能な仕組みになるのではないかとと思う

(白木会長)

●世の中の流れとして、地域における連携がなくなってきている。地域とのつながりや人間同士のヒューマンタッチがないと生きていくことが面白くない。ミニ区役所を介した地域連携の場ができることにより、面白い社会になるといい。人間関係のつながりをたくさん持っていることが幸せだと考える国もある。これからもみなさまと一緒にアイデアを出して考えていきたい。

## 5 閉会